



(Pink Wheel Project)とは

女性パワーを結集して クルマ社会を元気に、 バラ色に！

何らかの形でクルマに関わる女性たちが集い、パワーを結集してクルマ社会を元気にしていこう！そんな目的で2013年3月にスタートしたのが「ピンク・ホイール・プロジェクト」(代表・まるも 亜希子)です。

ジャーナリスト、編集者、モデル、自動車メーカー、関連サービス業界などから、メンバーは今でも増え続けて100名を超えてます。

「クルマ」というキーワードを介して、これだけの女性たちがネットワークするのは業界初の試みということで、キックオフ・ミーティングでは斬新かつ有効なアイデアが多数飛び出しました。

現在は経済産業省との共同プロジェクトが主な活動ですが、勉強会やワークショップ、女性だけの試乗会や運転講習会など、それらのアイデアを実現すべく、様々な企画を思案中です。

暮らしの中から育まれるリアルな女性視点の先には、子供や高齢者、そして地球にも優しいクルマ社会があるはず。

本日のシンポジウムでぜひそのパワーを感じていただくとともに、今後の活動にもどうぞご期待ください。



写真提供：『ahead.』

女性視点が次世代のクルマ社会を創る わたしとクルマのイイ関係



Message

自動車産業は日本の経済と雇用を支える基幹産業です。たくさんの方々が、自動車製造や自動車整備など何らかの形で自動車に関わって仕事をしています。また、日常生活における最も身近な移動手段として、自動車がなくてはならない生活をされている方も多いでしょう。

しかしながら、将来にわたって続く人口減少や高齢社会、さらには若者のクルマ離れなど、我々は国内で様々な課題に直面しています。こうした状況下にあって、我々と自動車との関係はどうあるべきか。自動車に関する国民一人ひとりが見つめ直す時期に来ているのではないでしょうか。

今回、自動車産業に携わる女性の方々を中心に、普段あまり自動車になじみの無い方も含めて、自由闊達に御議論いただく機会を得ることができました。

関係者のみなさまには深く御礼を申し上げますとともに、この機会が、自動車のことを今一度じっくりと考える機会になれば幸いです。

経済産業省 製造産業局 自動車課

一般社団法人性世代自動車振興センター(NEV)は、2007年に財団法人日本自動車研究所から独立、現在に至っています。

NEVでは、電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)などの、環境・エネルギー性能に優れた自動車の普及促進のため、EV・PHV購入時や充電インフラ整備時に対する補助事業等を行っています。

**一般社団法人
次世代自動車振興センター(NEV)**

女性視点が次世代のクルマ社会を創る —わたしとクルマのイイ関係—

2013年 11月 29日(金) 14:00~17:00

会場 東京ビッグサイト 会議棟6F

参加 定員200名／事前登録制

プログラム

主催者挨拶

14:00~14:05

経済産業省 製造産業局 自動車課

対談 <第一部>

14:05~15:00

司会／
コーディネーター



カラーライフ
ジャーナリスト
まるも 亜希子

対談 <第二部>

15:00~16:00

女性とクルマの現状

～リアルな現場からの課題と次世代への提案～

カラーライフエッセイスト

吉田 由美



日刊自動車新聞

花井 真紀子

日本EVクラブ
石川 韶子

女性とクルマのリアルな
現場では今、どんな問題
があるでしょうか。プロ
の視点で浮き彫りにし、
そこから見えてくる次世
代への提案を展開。キ
ーワードには「ITS」や「EV」
も挙がります。

対談 <第三部>

16:00~17:00

クルマの先進国とどう違う？

～次世代の日本女性のカラーライフとは?～

モータージャーナリスト
環境ジャーナリスト

川端 由美



プロジェクト・シトロエン・
ジャパン株式会社
村田 佳代

経済産業省
製造産業局
自動車課
笹川 武寛

欧州をはじめ自動車文化
が成熟した海外のカラーライ
フ事情を紹介しながら、
どんな点が優れているの
か、日本女性の今後の
カラーライフへ、どんな点
を取り入れができる
かを議論します。

目からウロコのクルマ選び

～女性が見るべきポイントと次世代のクルマづくり～

カラーライフ
ジャーナリスト

緒方 昌子



日産自動車株式会社
横溝 恵子

株式会社オーテック
ジャパン
高木 祐美

男性にはわからない、女性
ならではのチェックポイ
ントや、ライフスタイル
が変わるとクルマ選びも
変わる、女性視点を活か
したクルマづくりへの
提言。次世代の福祉車両
にも着目します。